

編集後記

私は、月刊の教育雑誌を4冊定期購読しています。

年間読書量は120冊。1ヶ月平均で10冊程度。しかし、イメージしている量の半分にも満たないのです。当然、自慢にはなりません。この程度で自慢したら相手にもされない世界がたくさんあることを知りました。

この2年間は、月1回平均で札幌、苫小牧、函館、釧路、そして道外へと教師の研究会、セミナー、そして学会に参加してきました。学会以外は高校教師はごくわずかです。いつも小学校の教師が多いです。

そこでは必ず、研究発表か模擬授業発表をしてきました。足が震えます。

プレゼンの練習は、日常が忙しいので、行きのJRか都市間バスの中、そしてホテルの一室です。PCを使って何度も何度も練習して頭にたたき込みます。はたから見ると異様に映ると思います。

その時にものをいうのが「圧倒的な読書量」。一つのテーマを調べて、ものになるのは本棚一つ、「身の丈ほどの本を読め」と言われます。アウトプットすることは、インプットするより数倍力がつくのです。

研究紀要の原稿執筆も同じではないでしょうか。

今回、北海道師範塾の研究紀要「北の教師道」第3号を作成致しました。

創刊号は16名の方から18本の原稿が届きました。第2号は14名の方から22本の原稿が届きました。そして今回3号は、26名から36本の原稿が届いています。お忙しい中、原稿をご執筆下さった先生方、本当にありがとうございました。

今回の特徴は、教師養成講座の卒業生7名から「1年目を振り返り」の原稿が掲載されていることです。質量共に充実した内容になっていますので、是非御一読なされることを願って編集後記の言葉と致します。



研究紀要「北の教師道」編集担当
齊藤満幸

